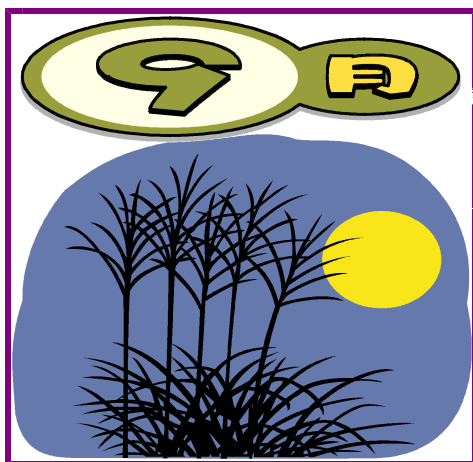


めぐみイエス・キリスト教会

2025年9月7日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第774号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌311「いかに恐るべき」 p. 494

【交読文】 No.58 コリント人への手紙Ⅰ 15章 p. 926

【賛美Ⅱ】 新聖歌454「立ちあがれいざ」 p. 730

【使徒信条・主の祈り・前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「神様は」

【聖書朗読】 ルカの福音書10章25節～37節 (p. 136上段)

【礼拝説教】 《良きサマリア人(愛の人とは?)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所

10:25 さて、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試みようとして言った。「先生。何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか。」

10:26 イエスは彼に言われた。「律法には何と書いてありますか。あなたはどうか読んでいますか。」

10:27 すると彼は答えた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』、また『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』とあります。」

10:28 イエスは言われた。「あなたの答えは正しい。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」

10:29 しかし彼は、自分が正しいことを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とはだれですか。」

10:30 イエスは答えられた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下って行ったが、強盗に襲われた。強盗たちはその人の着ている物をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。

10:31 たまたま祭司が一人、その道を下って来たが、彼を見ると反対側を通り過ぎて行った。

10:32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。

10:33 ところが、旅をしていた一人のサマリア人は、その人の所に来ると、見てかわいそうに思った。

10:34 そして近寄って、傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した。

10:35 次の日、彼はデナリ二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』

10:36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」

10:37 彼は言った。「その人にあわれみ深い行ないをした人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」

●ポイント1. 律法の専門家が信じているユダヤ教の教えとは？

※旧約外典シラ書(集会の書)12章4節～5節

12:4 信仰深い人に施せ。だが、罪人には援助するな。

12:5 謙遜な人に良い業をせよ。しかし、不信仰な者には施すな。不信仰な者には食べ物を拒み、何も与えるな。さもないと、彼はそれで力を得て、お前に立ち向かって来るだろう。不信仰な者に施すあらゆる善い業は、二倍の悪となってお前に返って来るだろう。

●ポイント2. 律法学者たちの実態とは？

※マタイの福音書23章27節～28節「受難週にて」 (新約p.49上段)

◎先週のメッセージ【見る目は幸い】

《主イエスは、いつもどのような顔をされていたのでしょうか。4つの福音書には、怒られた顔、泣かれた顔、悲しまれた顔については書かれています。まず怒られた顔とは、エルサレムの祭りの時に、弟子たちと共に神殿に巡礼に来た時のことです。両替人や鳩を売る者たちを追い出しました。次に、泣かれた顔ですが、主イエスは二度ほど涙を流されたことが福音書には書かれています。しゅろの日曜日に、子ロバに乗って入場された時に、この都の為に泣かれ、そして、ラザロの墓の前において、涙を流されたと、ヨハネは書いています。

次に悲しまれた顔は、ゲッセマネの園においてのことです。その姿を見たのは、ペテロとゼベダイの子ヤコブとヨハネの三人でした。

そして福音書には書かれてはいない顔があります。それが笑顔なのです。尾山令仁先生は、「主イエスはいつも笑顔であったからこそ、弟子たちや福音書の著者たちは、あえて、主が笑われたことを書き記さなかった。」と教えられました。

「あなたがたが見ているものを見る目は幸いです。多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たいと願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けませんでした。」と、主イエスは弟子たちに語られました。

多くの預言者や王たちが見たいと思ったのは、まさしくアブラハム・イサク・ヤコブの神でした。弟子たちは、その神様を自分たちの目で見、そして神の声を聞いているのだ、と主イエスは言われるのです。

残念ながら私たちは、今はこの目で、主イエスを見ることは出来ませんが、やがて見ることになります。それが次なる預言の成就となる「携挙」の時なのです。その時、『この方を私は自分自身で見る。私自身の目がこの方を見る。』とヨブが預言した通り、私たちは生きたまま空中に引き上げられて、満願の笑顔の主イエスを拝するのです。》

◎お知らせ

※次回、9月14日第二主日礼拝は、通常通り、午前10時からです。